

学校だより 12月号



東深沢

令和7年11月28日
みしまの森学舎
世田谷区立東深沢小学校
校長 奥長 英樹



副校長 高木 案理

木々の葉もすっかり色づき、冬の訪れを感じる季節となりました。先日行われました学習成果発表会には多くの保護者・地域の皆様にお越しいただき、ありがとうございました。今年度は「自分の色を探し、友だちとよさを見つけ合って学びの花を咲かせよう!」のテーマのもと、音楽部門(1・3・6年)と図画工作・家庭科部門(2・4・5年)に分かれ、今までの子どもたちの学習の成果を発表させていただくこととなりました。

音楽部門では、一人一人の歌声や奏でる音が響き合い、学年全体で作上げたハーモニーが体育館いっぱいに広がりました。図画工作・家庭科部門では、どの作品にも子どもたちの思いが込められており、豊かな感性や工夫が光る力作が並んでいました。

当日参観された皆様からいただいた、温かい拍手やお言葉、笑顔が子どもたちの大きな励みになりました。地域に支えられ、見守られていることへの感謝を改めて感じております。ありがとうございます。

さて突然ですが、みなさんは“おにぎりの具”と言え、何を思い浮かべますか・・・?(うめぼし、しゃけ、おかか、たらこ・・・)などでしょうか。以前私が指導していた特別支援教室での「気持ちをそろえて」という学習の中での問題です。5名程度のグループで出されるお題について、多くの人が思い浮かべるであろう答えを各自考えボードに書き、そろった数だけ点数がもらえるというものです。ポイントとなるのは、「自分が好きだから・・・。」と言うことではなく、あくまでも「多くの人は・・・。」「みんなは・・・。」ということを念頭に置いて考えるということです。毎回、全員の答えが一致すると子どもたちから大きな歓声が上がっていました。

人には誰でも思考に傾向があったり、癖があったりするものです。また、私もそうなのですが、つい独りよがりな考えで「こうあるべきだ。」「こうすべきだ。」と決めつけてしまうこともあります。

特別支援教室で学習を積んだ子どもたちで、最後のお楽しみ会に何をするか話し合いました。「サッカー、ハンカチ落とし、おにごっこ、野球・・・」初めはそれぞれにしたいものを口にしていました。そこで、以前に学んだ「気持ちをそろえて」の学習を想起するようにしました。すると子どもたちは、みんなが楽しめるものといえどどんなものがあるかを考え始めました。そして、最終的にはだれでも楽しめる、風船を使ったバレーボールをすることになりました。

子どもたちは日々、学校という集団の中で生活し学んでいます。その場の状況に適応し、多くの友達とうまく関わっていくためには、多くの人は、みんなはどう考えるのだろうか、という思考をもつことが大切になってきます。これは大人になり、社会に出てからも変わらないことだと考えます。そしてこのことは私自身、常に意識していることでもあります。

また、多くの人はどのように考えるのだろうかということを意識できるからこそ、人との違いを正しく自覚し、それを強みに変え、自分自身の個性として伸ばしていくことができるのだとも考えます。もしお子様が友達との関わりの中で、自分の思いや考えが受け入れられずに悩んでいることがあれば、「みんなはどうか・・・?」ということと一緒に考えていただければ幸いです。

「気持ちをそろえて」の他のお題には「赤いくだものと言え」「すっぱい食べ物と言え」「大きい動物と言え」などがありました。この冬休み、一家団らんの機会があればぜひお試しください。